

# 事業報告書

2022年度（令和4年度）

2022年（令和4年）4月 1日から

2023年（令和5年）3月31日まで

滋賀県近江八幡市市井町177番地

学校法人 ヴォーリズ学園

## 2022年度事業報告書

2022年度は、ヴォーリズ学園にとって、創立100周年の節目の年でした。

私たちは、一連の記念行事を通して、改めて本学園は創立者ヴォーリズ夫妻に連なる多くの先輩たちの尊い働きの上に現在があること、素晴らしい生徒・子どもと多くの支援者に恵まれた幸せな学園であることを実感することができました。創立100周年の節目にあたり、「100年の絆」に感謝し、「次世代につなぐ教育」をしっかりと創造しなければならないと決意を新たにしました。

創立以来100年間、一時として順風な時はなかったように思いますが、現在も学園を取り巻く情勢は、大変厳しいと言わなければなりません。予想を超えて進む少子化・人口減、長引くコロナ禍、ロシアによるウクライナ侵攻等、閉塞感が社会全体に広がり、経済状況も危機的と言えます。しかし私たちは、次の100年に向けて、未来を切り開きなければなりません。そのために2030年を想定した学園の中期展望「ヴォーリズみらい構想」をまとめ、「創立100周年記念式典」において発表しました。以下、その構想を踏まえ、2022年度の到達点を確認します。

### (1) 教育・保育づくり

「心理的安全性」が保障されてこそ、子どもたちや生徒たち、そして教職員も、生き生きと学び働くことができ、時代が求める「探求的学び」等の教育改革にも取り組むことができます。「リベラルアーツ教育」「オンライン・オンデマンド・オンキャンパスの教育」「ハンズオン教育」「グローバルSDGs人財の育成」等、改革課題は多くありますが、すべての土台は「いのちを大切にす教育」です。今年度も「体罰」や「ハラスメント事案」が無くなっていないことは極めて重く受け止めなければなりません。また「働き方改革」の取り組みも急がなければなりません。

### (2) ハイド記念館・教育会館の保存活用

「ヴォーリズ記念館・ハイド記念館・教育会館保存活用推進協議会」を軸に、「近江八幡百人百景」に取り組みました。地域の諸団体・業者、大学等との連携が大きく進みました。また近江八幡市担当者、建築関係の研究者の支援・協働も得られつつあります。独自の寄付活動も始まっています。

### (3) 浅小井校地「ヴォーリズみらいビレッジ」

浅小井校地・北之庄校地を、「ヴォーリズみらいビレッジ」として活用するため、現在、事業を展開する団体・事業者との会議（ヴォーリズみらいビレッジ運営連絡会議）が発足しました。地域の業者・団体による活動も少しずつ活性化しています。様々な事業が収益を得て、自立できる体制の構築が課題です。

### (4) エデュケアセンター事業

ヴォーリズ学園が運営する認定こども園3園・保育園3園のそれぞれが、地域・地元との連携を大切にしながら、共通する「ヴォーリズ・メソッド」の確立の取り組みが始まりました。また安土保育園建て替えは、年度を跨ぎましたが、園舎は無事竣工しました。金田東保育園の認定こども園化・建て替え事業の取り組みも始まりました。

### (5) 市井校地整備（新たな教育のステージとして）

新恵愛館（ラーニングcommons）をイノベーションに資する施設、学習機能強化・キャンパスライフ充実につながる施設として概観を策定し、併せて西館リニューアル、ハイド記念館周辺等の既存施設の整備案についても検討が進みました。

### (6) 組織改革・経営体質の強化に向けて

「学園機能の強化」のため、権限と責任が一致し、エネルギーを最大限発揮できる学園組織の構築を任務とする「学園改革推進本部」がスタートしました。その他、「人事統括委員会」「教育改革推進委員会」「ヴォーリズ・コーチングアカデミー推進委員会準備会」等、新たな組織を立ち上げました。

理事長 藤澤俊樹

## I. 学校法人の概要

本法人は「イエス・キリストを模範とし、教育基本法および学校教育法に従い、学校教育を行い、自己統制力のある自由人、独立自主の創造力に富む人、知性豊かな国際人を育成すること」を目的としております。

2022年度における本法人の概要は、以下のとおりです。

### 1. 設置する学校等

近江兄弟社高等学校 全日制課程 普通科・国際コミュニケーション科  
近江兄弟社中学校  
近江兄弟社小学校  
近江兄弟社ひかり園  
もりの風こども園  
そらの鳥こども園  
金田東保育園（本園・分園）  
安土保育園（本園・分園）  
ふるたか虹のはし保育園  
安土こどもの家（指定管理）  
守山児童クラブ室（物部・小津・玉津）（指定管理）

### 2. 沿革

- 1905年 ウィリアム・メレル・ヴォーリズ、滋賀県立商業学校英語教師となる。  
商業学校生徒を対象にバイブルクラス、YMCAを組織。吉田悦蔵ら同居。
- 1907年 八幡 YMCA 会館（現アンドリュース記念館）建設。悦蔵と共同生活。悦蔵、商業学校卒業。ヴォーリズ、同校退職。八幡に留まる。
- 1909年 大津・米原に鉄道 YMCA 設立。
- 1917年 近江ミッション所有地を開放してプレイグラウンドとする。
- 1919年 メレル・ヴォーリズ、一柳満喜子と結婚。
- 1920年 プレイグラウンドに清友園と名付け、ヴォーリズ満喜子が園長となる。
- 1922年 清友園幼稚園開設。園長・ヴォーリズ満喜子。戦後、近江兄弟社幼稚園と改称。
- 1923年 米原シオン幼稚園開設。園長・吉田清野。42年閉鎖。  
吉田悦蔵著『近江の兄弟ヴォーリズ等』出版。跋文、賀川豊彦。
- 1930年 ヴォーリズ、Colorado College L.L.D（名誉法学博士号）授与される。
- 1931年 ハイド一家の寄付により幼稚園舎（現ハイド記念館）、体育館（現教育会館）建設。
- 1933年 吉田悦蔵ら近江勤労女学校設立。35年、近江兄弟社女学校に改称。戦後、新制中・高等学校（近江兄弟社中・高等学校）になる。近江向上学園設立（女子従業員教育、学園長・佐藤安太郎、西村関一、吉田政次郎）。戦中、女子青年学校、戦後、近江兄弟社高等学校定時制部、78年廃部。
- 1935年 幼稚園の分園事業として大林公衆浴場二階において、大林の幼児のために保健 衛生を主とした生活訓練を開始、これを「大林こどもの家」と称した。翌年、慈恩寺町に活動場所を移し、39年から本園の幼稚園に合流。このころまでに、堅田・今津・水口幼稚園、八日市託児所、近江家政塾、八幡英語学校、江西義塾、農村青年学校、清友園教育研究所等多様な教育事業展開。
- 1940年 近江兄弟社図書館開設（吉田悦蔵館長）。75年近江八幡市に移管。
- 1941年 ヴォーリズ帰化、一柳米来留と名のる。太平洋戦争始まる。
- 1942年 女学校長・吉田悦蔵召天。以後校長、高橋虔、檜山嘉蔵。
- 1942年 時局により向上学園閉鎖、近江兄弟社女子青年学校に（校長・村田幸一郎）。  
清友園幼稚園、大林こどもの家、近江兄弟社女学校などをまとめて近江兄弟社学園と称し、檜山嘉蔵が学園長となる。

戦時中、一柳一家は軽井沢にて暮らす。メレルは宣教師らと教会・学校建築計画に余念なく、東京大学にも出講。満喜子は軽井沢幼稚園・啓明学園などの運営を委託される。戦後帰幡。

- 1947年～近江兄弟社小・中・高等学校・同定時制部を順次整備（一柳満喜子学園長）。
- 1950年 中高校舎建設、67年焼失。68年新校舎建設。2007年改築（現学園本館）。
- 1951年 学校法人近江兄弟社学園設立。初代理事長・一柳米来留、学園長・一柳満喜子。
- 1954年 一柳米来留理事長、藍綬褒章、58年近江八幡名誉市民、61年黄綬褒章受章。
- 1963年 一柳満喜子学園長、教育功労者として藍綬褒章受章。  
「小中学校を廃止して高等学校の充実を計る」と発表した、反対運動で中止。希望館建設、2010年改築（現希望館）。
- 1964年 財団法人近江兄弟社と経営分離。校名変更検討・保留。一柳米来留理事長召天。
- 1969年 一柳満喜子理事長・学園長召天。以後、理事長、尾崎政明、西川仲二、西村関一、山本肇、草間修二、西村与左衛門、山田眞、仁村昭司、道城献一、岩原侑、池田健夫。学園長、浦谷道三、尾崎政明、草間修二、大橋寛政、仁村昭司、道城献一、奥村直彦、大門義和、中島修、佐野安仁、道城献一、池田健夫。
- 1972年 学園創立50周年を記念して体育館建設（ヴォーリズ記念体育館）。高校海外研修旅行（韓国）開始、90年より分散型に変更。
- 1974年 株式会社近江兄弟社会社整理、75年より財団補助金廃止、私学助成制度開始。
- 1978年 高等学校定時制部廃止。
- 1979年 高校新校舎建設（現西館）、4学級制に対応。
- 1980年 中学校2学級制に。84年から3学級制、92年から4学級制化。
- 1983年 中高一貫コース開始、翌年、特進コース開設。93年コース制解消。
- 1988年 三輪英樹五輪出場。以後、伊藤みき、乾友紀子出場。
- 1991年 学園創立70周年を記念して新図書館棟建設（現捜信館）。
- 1992年 高校女子バレーボール部「春高バレー」に初出場。93年野球部が甲子園初出場。以後、全国大会出場クラブ多数。
- 1994年 北之庄校地取得、95年グラウンド造成（ヴォーリズ記念グラウンド）。
- 1997年 文化体育交流センター建設。
- 1996年 シャロン館建設（現高校エクステンションセンター）
- 1998年 小学校2学級制にするも2002年中断。
- 2000年 ハイド記念館・教育会館が有形文化財に登録される。高校新校舎建設（現東館）。6学級制に対応。
- 2001年 高校に単位制課程を設置（希望館）。05年北館建設、単位制2学級化に対応。
- 2002年 近江兄弟社総合サービス有限会社設立（スクールバス、営繕、警備）。「21世紀グラウンドデザイン」策定、17年終了。
- 2003年 幼稚園新園舎建設。近江兄弟社こどもセンター設立。
- 2004年 エンジェル保育園開園。
- 2007年 星のひかり保育園開園。学園本館建設、5階にヴォーリズ平和礼拝堂設置。第1回「いのちと平和の集い」（以後、毎年開催）。学園宗教センター開設。
- 2008年 金田東保育所運営開始。
- 2009年 「ヴォーリズ展 in 近江八幡」市民実行委員会により開催。学園は全面協力。
- 2010年 安土保育園運営開始。安土こどもの家指定管理者として運営開始。新希望館建設、ICC発足、翌年、高校国際コミュニケーション科認可。武道場建設。
- 2011年 守山市にもりの風こども園開園。浅小井校地取得、中高体育施設・小学校舎整備。
- 2013年 近江兄弟社ひかり園運営開始。
- 2014年 小学校を浅小井校地に移転。ヴォーリズ没後50年記念行事「ヴォーリズメモリアル in 近江八幡」市民実行委員会により開催。  
「ヴォーリズ建築を巡る韓国旅行」主催。
- 2015年 法人名を「学校法人ヴォーリズ学園」に変更（以後、理事長・池田健夫、藤澤俊樹。学園長・道城献一、池田健夫）。
- 2016年 弓道場移転。第10回「いのちと平和の集い」（以後、隔年開催）。18年度近江兄弟社小学校児童募集停止発表（12月）。

- 2017年 東近江市にそらの鳥こども園開園。メインアリーナ竣工。サブアリーナ改修。  
 2018年 「近江兄弟社こどもセンター」を「ヴォーリス・エデュケアセンター」に変更。  
 ヴォーリス・コーチングアカデミー開設。  
 2019年 「第一次フロンティアプロジェクト」から「第二次フロンティアプロジェクト」へ  
 ヴォーリスみらい構想準備会を立ち上げ、委員会スタート（1月23日）。  
 高校国際コミュニケーション科定員増（2学級）。守山市にふるたか虹のはし保育園  
 開園。一柳満喜子没50周年記念事業実施（8月～11月）。  
 学校法人関西学院と近江兄弟社グループが連携協定締結。  
 2020年 「ヴォーリスみらい構想」策定。COVID-19による休校（4～5月）。  
 2021年 浅小井校地グラウンドを人工芝化。宗教センターを「ヴォーリス・キリスト教平和セ  
 ンター」に改称。  
 2022年 創立100周年を迎え、創立100周年記念式を開催。

### 3. 設置する学校等の定員および生徒数の状況（2022年5月1日現在）

校 園	定員数	生徒・児童・園児数
高等学校	1,190名	1,200名
中学校	456名	420名
小学校	(432名)	13名
こども園	550名	553名
保育園	474名	490名
学 童	370名	374名
合 計	3,472名	3,050名

### 4. 役員および教職員の概要等

#### ①役員一覧（2022年5月1日現在）

理 事 長 藤澤俊樹  
 常任理事 小野春男 松田 保 安川千穂 池田健一 中島 薫  
 小森康三 田邊理恵子 浅居正信 山崎 直  
 理 事 奥 達夫 山村 徹 上野昌志 蔭山孝夫 筈井昌彦 尾賀康裕  
 監 事 小西 勉 川森勇次  
 評議員 40名

#### ②教職員数（2022年5月1日現在）

法人本部	理事長、学園長、副学園長、事務長、参与、事務次長2、 専任職員7、エデュケアセンター専任職員7					
	校 長	副 校 長	専任教員	兼任教員	専任職員	兼任職員
高等学校	1	3	77	25	2	22
中学校	1	教頭含2	25	6	0	10
小学校	1	教 頭1	3	2	0	1
こども園 (3)	園長3	副園長3	80	0	6	66
保育園 (3)	園長3	2	0	0	79	69
学 童 (4)	0	0	0	0	10	36

## II. 各校園事業報告

### 1. 高等学校

はじめに2023年度入試では併願受験者数の100名減少に加え、併願歩留まり率の低下、国際コミュニケーションクラス的大幅な定員割れにより、378名の入学者数となりました。2年連続の定員割れであり、専願率を高める教育改革と募集対策の充実が急務です。

学習面では、高校1・2年生で英語学習アプリを用いたVCEP（CEFR対策）に取り組みました。英語検定の取得状況や模擬試験の結果においてその成果が現れています。また多くの授業でアクティブラーニングが実践され、主体的に学ぶ姿勢を育み、仲間と協働して探求する授業実践が見られます。課題として授業等でICT機器を一斉に使用するときのWi-Fi接続ができない状況が多くあり、対策が求められます。また授業で興味関心を高め、さらに学習に取り組もうとする姿勢の育成については引き続き大きな課題となっています。

教科型エクステンションプログラムでは、希望者に対する個別最適化学習をスタートさせました。平日の放課後塾とともに、熱心に学習に取り組んでいる生徒の姿が見られました。教科外エクステンションプログラムは、インターアクトクラブを中心に少人数での取り組みを行いました。2023年度からはこの取り組みを全学的に広げます。

行事面では、学園祭体育の部で「団パフォーマンス」を復活させました。2年連続の中止により経験のない生徒集団でしたが、制限を設けた中でも工夫を凝らし、ブランクを感じさせない出来映えとなり、参観された保護者にも好評を得ました。文化の部では、文化部の発表と共に、学年毎にテーマを決めた取り組みを行いました。また飲食の制限がある中、中庭マルシェを継続し、生徒たちにも好評でした。

高校2年生の海外研修旅行は、各クラス毎にテーマを設定し取り組みました。ICCはオーストラリアへの語学研修、ASCは関東方面への探究活動、GLCは北海道への未来塾研修、HNCは沖縄での平和学習を行いました。北海道では遺愛学園高校との交流も行いました。

2023年度は全クラス、海外への研修旅行を復活させる準備をしています。

進路状況では、四年制大学への進学率が84.9%（2022年度78.7%）、短期大学進学率2.3%（3.9%）、専門学校8.7%（12.9%）、就職0.5%（0.3%）、その他3.6%（4.2%）となり、四年制大学進学志向が更に高くなりました。指定校・連携校推薦による合格者数とともに、AO入試等の総合型選抜入試での合格が増加しています。

生徒異動では、25名（2021年度39名）の転退学者がありました。学年制1年不登校生徒の通信制高校への転学者、および単位制3・4回生長期欠席者の転退学者が相当数を占めています。ICTの活用やNHK学園通信講座の利用など、不登校生徒の支援についての検討を進めます。

クラブ活動では、多くの大会が再開され、本校生徒の活躍がありました。県民体育大会年間総合で女子が2位の成績を残しました。多くのクラブが全国大会や近畿大会に出場しました。一方で、部活動指導における体罰や指導者の言葉によって生徒を傷つける問題がありました。これらは何よりも生徒の安全・安心を保障し、「いのちを大切にする教育」を教育の柱としている本校においては、全ての教育活動において許されないものと認識します。全教員がこの認識を共有するとともに、クラブ指導においては本校の目指す部活動の在り方を示した「高等学校部活動指導方針」に基づいた実践と研修に努めます。

校務運営では、高校運営委員会で決定した内容を教職員会議で合意して行動するという形が定着しています。しかしコロナ禍での制限に加え、組織の拡大や校内グループウェアの導入等に伴い、教員間の直接的なコミュニケーション不足による問題が生じました。職員研修や会議の充実を通して、全職員の円滑な情報共有と意見交換ができるように改善します。

現在のクラス制度も6年が経過し、各クラスの教育目標に即した特色ある取り組みが確立し、活動の集大成として各クラス毎に学年を超えた発表の機会が設けられたり、レポート集が作成されて成果の蓄積が進みました。次年度は、更なるリベラルアーツの学びの発展を目指し、教育改革計画の策定に取り組みます。皆様のご理解とご支援をお願い致します。

## 2. 中学校

今年度もコロナ禍での学校運営となりましたが、これまでの経験を活かして生徒たちの安全安心を守り、更に工夫をして充実した学校生活を支援することを目標としました。また、この間中止や制限をしていた行事や授業の保護者参観を、時間帯を分け来校者の分散を図る等工夫をして実施することができました。

コロナ禍での学校運営は大変なことも多くありますが、プラスとなる変化をもたらした部分もあります。ICT機器の活用によって、教育活動や連絡体制、情報発信・共有等が飛躍的に推進できました。また、学校生活においては生徒自身の健康管理や周囲に対する配慮などの意識が高まったこと、様々な工夫や仲間との協力の大切さをより実感できる機会にもなりました。

「いのちを大切に教育」を教育の基盤とし教育活動を進めました。各教職員は年度初めに自己目標を立て、クラス経営や教科指導等それぞれが担当する場面で生徒たちへの配慮やつけさせたい力を明確にして教育活動を行う事を心がけました。年5回実施している「いごこち度アンケート」において、どの学年も年度末には不安感の軽減が見られ、また存在感、ソーシャルスキル、自己肯定感の向上が見られました。

学習面では、本校教育の柱である「英語教育」「ICT教育」「探究学習」をさらに推進しました。

「英語教育」では、言語習得の流れを大切に学習方法であるラウンドシステムによるECⅠを週4単位、またクラスを半分に分けたハーフサイズクラスで、それぞれにネイティブ教員と日本人教員を配置した英会話授業のECⅡを週2単位とし、全学年カリキュラム変更をして、英語5技能の習得の充実を図りました。英検準2級、2級の取得率が上がり、英語4技能試験GTECのスコアも上がりました。

「ICT教育」では、今年度生徒全員がタブレット端末を持つての学習体制が整う年度となり全ての授業で活用することができました。より主体的に効率よく学習を進めるとともにLHRや行事、委員会活動など様々な活動にも活用することができました。さらにICT機器を適切に使用することができるようリテラシー習得の指導も行いました。

「探究学習」では、各教科「課題の発見・解決に向けた主体的・協働的な学び」を意識した授業展開、探究型学習の研究を進めました。

今年度より1年生はLHRを活用して、また集中して探究学習に取り組む「探究ウイーク」を設け、自ら課題を設定し情報収集や分析、考察を行うなど主体的な学びを積み重ねました。

学年行事では、1年生は「京都研修」、2年生は「沖縄研修」、3年生は「ヴォーリズ研修」と宿泊を伴う研修を実施することができました。特に3年生では、コロナ禍によりこれまで宿泊研修の経験がなかったため、ヴォーリズ研修では神戸女学院・関西学院での研修に加えて神戸の街の体験学習や散策を行程に入れ、1泊2日で実施しました。

他校園との連携では、近江兄弟社高等学校への体験入学などを実施し、各クラスの特徴や魅力について伝える機会を持ちました。今年度は内部進学学生が79名となり内部進学率は58%と増加しました。近江兄弟社小学校との連携では、小中合同の花の日礼拝の実施や小学校体育祭の運営を中学生がサポートするなど行事での連携ができました。また児童たちを市井校地に招き、中学校教員によるプログラミング授業、中学校模擬試験の解説、食堂体験など中学校の学習や生活体験を行いました。

学校運営では、中高管理職会議を充実し情報共有をするとともに各校の運営についても議論する体制を強化しました。また今年度より入試連携部長を任命し中高の連携強化と募集対策強化を図りました。

生徒募集では、学園の理念、中学校教育目標を丁寧に説明し、教育の柱をアピールしました。また、できる限り生徒たちの活動の様子や姿を見てもらう機会を設けました。今年度はさらに英語教育の充実や自己推薦の要件として英検取得を挙げるなど、英語教育に力を入れている本校の特徴を強くアピールしました。入試要項においても併願受験の受験科目を国語・算数の2教科に変更、また2次日程入試を他校との併願が可能な日程としました。結果、英検定取得者の受験生の増加が見られ、また併願受験者数が増加しました。しかし推薦入試資格者の出願、出願者の受験、合格者の手続きの各段階での辞退者が例年より多く、入学者数は134名（昨年度136名）となり今年度も定員152名を下回る結果となりました。2022年度募集総括をしっかりと行い、2023年度に向かいたいと思います。

### 3. 小学校

全校児童13名で迎えた2022年、「従来やってきたことを、継続して最後までやり遂げる」に止まることなく、もう一歩・二歩飛躍させるようラストステージにふさわしい取り組みを創り上げることを心がけてきました。

#### ○最後まで工夫して取り組んだ各行事

4月28日(木)～29日(金)には琵琶湖一周サイクリングに出かけました。一日目は宿泊予定地のマキノまで自転車で走行しましたが、一泊後の二日目は天候の関係で自転車走行は断念し、バスで近江八幡まで帰ってくるという苦渋の決断をせざるを得ませんでした。二日目は、今津のヴォーリズ通りにある『今津ヴォーリズ資料館』『旧今津郵便局』『今津教会』を見学させていただきました。今回もこれまで同様多くの保護者やボランティアの方々のご支援をいただき行うことができました。

9月17日(土)、浅小井人工芝グラウンドで運動会を行いました。「開会式」では、高等学校吹奏楽部の演奏に合わせて、子どもたちは風船を手に堂々と入場行進し、約100個のエコ風船が大空に飛び放たれた瞬間、会場中に歓声が上がりました。「応援合戦」「団体演技」では、子どもたちの爽やかな笑顔で一生懸命にダンスする姿を披露することができました。「団体競技」では、小学生に加え、卒業生、中高生、保護者、学園教職員等多くの方々の参加で、とても和やかな時間が流れました。また「小中高一貫リレー」では、学園の中学生、高校生にも出場していただき、ヴォーリズ学園らしい、つながりを感じることができました。「閉会式」には、PTAより子どもたち一人ひとりにピカピカ輝く金メダルを授与していただきました。大変多くの方々に応援していただいた最後の運動会は、感謝の運動会でした。

9月27日(水)～30日(水)、お天気にも恵まれ、石川県加賀・能登方面へ2泊3日の修学旅行に出かけました。旅の始まりは、これまで交流を重ねてきた北陸学院小学校を訪問。心から感謝のメッセージを送りました。加賀・能登の文化と豊かな自然に触れ、多くの出会い、発見そして学びのある素敵な3日間を過ごしました。行く先々で、長い間お世話になったお礼を心から伝えることができました。

12月10日(土)に、「クリスマス礼拝」を行いイエスさまのご降誕をお祝いする時をもちました。今年は、保護者の参観、また懐かしい先生方もお招きして執り行うことができました。一人ひとりがペンライトをもって入場する「燭火入場」、そして影絵と朗読と聖歌、卒業生がチェロの音色を奏でいただき、とても幻想的で、クリスマスの雰囲気を高めていただきました。児童と保護者をはじめ会場の皆さん全員での「もろびとこぞりて」の斉唱、「ハレルヤコーラス」、クリスマスは最高潮を迎えました。厳粛で幻想的な雰囲気の中でクリスマス礼拝を守ることができました。

2月11日(土)、土曜登校日の授業参観で、学習発表会を行いました。今年は、オリジナル創作劇、「One Way to the Lord～未来へ羽ばたく～」。子どもたちは、一柳メレル先生と満喜子先生と一緒に、タイムマシンに乗ってタイムスリップし、近江兄弟社小学校の歴史をふり返ります。キーワードはクラスネームでもある「四つ葉」。その花言葉は「平和」「希望」「愛」「幸福」。さて、それぞれの時代で出会った子どもたちの心の中に、四つ葉のクローバーは見つかるのでしょうか。というお話です。劇終了後、卒業スピーチを一人ひとりが発表。まずは、将来の夢「My Dream Job」を英語でスピーチし、続けて保護者の方々へ感謝のメッセージを日本語で伝えました。13人全員の凛々しく逞しい姿に、会場中は幸せに包まれ、あたたかい空気が流れていました。

3月11日に、近江兄弟社小学校の第71回卒業式を執り行いました。当日は、6年卒業生とその保護者の皆様、近江兄弟社小学校卒業の近江兄弟社中学校・高等学校の皆様をはじめ、多くの方々のご参列を得て、最後の卒業式を執り行うことができました。皆様と一緒に13名の卒業生の旅立ちを祝福するとともに見届けていただくことができたことは、この上ない喜びであり、心より感謝申し上げます。

#### ○アーカイブエリアの設置・公開

3月19日～21日にはグロリアホール「アーカイブエリア」の特別公開を行いました。いつでも、いつまでも、近江兄弟社小学校が、皆の心のホームであることを願って、2021年11月頃から構想練り、準備を進めてきたものです。公開の4日間でのべ380名の皆さんがご来場いただきました。多くの方々のご支援に対し心から感謝申し上げます。



#### 4. ヴォーリス・エデュケアセンター (Vories EduCare Center)

##### (1) ヴォーリス・メソッドの体系化

2022年度は清友園幼稚園（後の近江兄弟社幼稚園）が正式な幼児教育施設として公に認められ100年目という記念すべき年となりました。ここ数年のエデュケアセンターのテーマでもあったヴォーリス・メソッドを策定し、全園において周知、本メソッドを用いて共に学ぶ機会を設けました。新たな取り組みを進める前に、これまで各園において培ってきた保育内容や子どもの育ちに対する寄り添い方などをメソッドに照らし合わせながら検証し、さらに一步先に進むための準備を進めました。メソッドの中心である「いのちを大切に教育」について、保護者や入園を検討される方にも発信するなどの取り組みをしました。

##### (2) 新型コロナウイルス対策

新型コロナウイルス感染症拡大予防に努めつつ、子どもたちの屋外での経験や保護者の行事への参加については園ごとに工夫しながら実施に努めました。

##### (3) 施設整備事業

施設整備事業では安土保育園（現：安土ののほな保育園）園舎建て替えが最大の事業となりました。当初は2022年度内に完成する予定でしたが、開発に関する許可が予定より遅れ、また、全国的な物資不足の影響を受け、工事に関する資材の入荷が遅れるなどの諸事情により2023年度を跨ぐことになりました（2023年5月1日引き渡し）。

金田東保育園の認定こども園化及び新園舎建築については、市の担当課と定例会議を持ち、具体的な内容等の話し合いを重ねました。2022年12月に理事会の承認を得て、正式に2024年度を建築年度とし、2025年4月開園予定で計画を進めることとなりました。もりの風こども園が計画しておりました園庭整備事業は予定通り改修工事を実施し、園庭の遊びの環境の充実を図ることができました。

##### (4) 放課後児童クラブ室の運営

2022年度は、守山市から指定管理を受け運営しておりました放課後児童クラブ室（物部・小津・玉津）の運営について最終年度となりました。最後まで学園の理念に基づいた運営に努め、新たな指定管理者に運営を引き継ぐことができました。

近江八幡市より指定管理を受けている安土放課後児童クラブ室においては一日いちにちを子どもたちと支援員が協力しあい過ごすことができました。

### Ⅲ. 財務報告（2022年度財務状況概要）

#### (1) 資金収支計算書

学校法人の当該会計年度の諸活動に対する、すべての収入・支出の内容を明らかにするものです。

##### ①資金収入

(単位千円)

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
学生生徒納付金収入	1,206,703	1,151,434	1,176,403	1,191,402	1,162,588
手数料収入	32,527	32,921	32,613	32,975	30,947
寄付金収入	48,803	31,839	19,203	21,130	13,815
補助金収入	1,756,736	1,607,069	1,711,254	1,691,171	2,039,516
資産売却収入	0	0	0	0	0
事業収入	109,236	119,056	132,337	138,409	141,577
受取利息・配当金収入	40	176	221	256	341
雑収入	76,551	42,455	50,956	131,538	90,463
借入金等収入	582,400	0	0	60,000	170,000
前受金収入	101,880	110,180	106,950	100,140	97,450
その他の収入	214,343	478,128	153,126	154,215	236,031
資金収入調整勘定	△568,627	△222,374	△254,270	△333,184	△557,854
前年度繰越支払資金	631,552	850,215	907,831	1,040,720	1,160,051
<b>収入の部合計</b>	<b>4,192,147</b>	<b>4,201,104</b>	<b>4,036,628</b>	<b>4,228,774</b>	<b>4,584,928</b>

##### ②資金支出

(単位千円)

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
人件費支出	1,904,102	1,995,722	2,063,333	2,103,756	2,099,634
経費支出	697,968	664,161	668,279	681,644	688,071
借入金利息支出	13,566	12,582	10,580	10,054	10,188
借入金返済支出	83,316	425,269	120,226	102,496	110,476
施設関係支出	577,371	28,954	17,186	89,344	269,732
設備関係支出	99,309	17,728	25,231	17,499	19,981
資産運用支出	50,000	50,000	50,000	50,000	50,000
その他の支出	90,624	173,777	117,306	88,815	91,772
資金支出調整勘定	△174,327	△74,924	△76,236	△74,888	△101,493
翌年度繰越支払資金	850,215	907,831	1,040,720	1,160,051	1,346,565
<b>支出の部合計</b>	<b>4,192,147</b>	<b>4,201,104</b>	<b>4,036,628</b>	<b>4,228,774</b>	<b>4,584,928</b>

(2) 事業活動収支計算書

会計年度における、学校法人の活動内容ごとに収支状況を明らかにするものです。

(単位千円)

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
教育活動収入	2,872,041	2,963,175	3,117,877	3,204,482	3,187,139
教育活動支出	2,861,533	2,958,987	3,026,743	3,070,226	3,060,140
教育活動収支差額	10,507	4,188	91,134	134,255	126,998
教育活動外収入	40	176	221	256	341
教育活動外支出	13,566	12,582	10,580	10,054	10,188
教育活動外収支差額	△13,525	△12,406	△10,359	△9,797	△9,847
経常収支差額	△3,017	△8,218	80,775	124,457	117,151
特別収支差額	382,958	23,248	8,074	△605	245,244
基本金組入前当年度収支差額	379,940	15,030	88,850	123,852	362,395
基本金組入額	△191,757	△505,035	△204,711	△174,418	△338,073
当年度収支差額	188,183	△490,004	△115,861	△50,565	24,322

(3) 貸借対照表

年度末における資産、負債、純資産（基本金、繰越収支差額）の状態すなわち財政状態を表示するものです。

(単位千円)

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
資産の部					
固定資産	6,149,004	5,955,698	5,756,170	5,625,289	5,647,000
有形固定資産	5,993,390	5,742,579	5,494,559	5,315,187	5,288,407
特定資産	150,000	200,000	250,000	300,000	350,000
その他の固定資産	5,614	13,118	11,610	10,101	8,593
流動資産	1,372,868	1,086,164	1,235,433	1,431,163	1,837,429
資産の部合計	7,521,872	7,041,862	6,991,603	7,056,452	7,484,429
負債の部					
固定負債	1,426,546	1,301,054	1,196,293	1,137,929	1,207,298
流動負債	767,987	398,438	364,090	363,450	359,662
負債の部合計	2,194,534	1,699,493	1,560,383	1,501,379	1,566,961
純資産の部					
基本金	8,047,805	8,552,840	8,757,551	8,931,970	9,270,043
繰越収支差額	△2,720,466	△3,210,471	△3,326,332	△3,376,897	△3,352,575
純資産の部合計	5,327,338	5,342,369	5,431,219	5,555,072	5,917,468
負債及び純資産の部合計	7,521,872	7,041,862	6,991,603	7,056,452	7,484,429